

文明開化の時代と明治前期

村にやってきた明治維新

慶応四年(一八六八)八月、郡内の村々に御一新の趣意書が回ってきた。その趣意書には「旧弊を洗い去る御一新の時代になったので、その趣旨を汲んで、村々々々の世話方も行き届くように」といった村役人クラスの心得を最初にし、四か条にわたっての取り締まり方が指示されているが、その内容は、前代とそう大きく違うものではなかった。

この年の九月に「明治」と改元され、その十月に、官軍に属する彦根藩の将兵が谷村に滞在することになったことは、変化を具体的に知ることができた最初かも知れない。彦根藩の役人が四人、同歩兵が二人、同郷夫が一人の合わせて七人が十月二日から同二十九日までの二十八日間、谷村に逗留している。このときの費用として、下谷村が約四十両で、上谷村分は約三十両余が「彦根様御人数賄料」として分担して賄っている。

御一新になって、村民にとって一番大きい問題は、年貢納入や伝馬人足の出し方がどうなるか、といったことだろう。この年の十月の、宿助郷に関する触書は、これからの新しい法制は、諸街道宿々や助郷村々の実態を把握した上で免除や減免もある。それまでは当

分の間は相互に和融して街道での継立て方に差し支えないようにせよ、というものであった。

このように取り敢えずの対策のなかで、行政の仕組みもどんどん変わっていった。これまでの代官所にかわって設置されていた鎮撫府が「甲斐府」へと名をかえたのがこの年の十月である。この甲斐府の設置によって、すぐ変わったことといえば、これまでの代官所時代の年貢や諸上納物は江戸上納が原則であったが、これからは甲斐府上納となり、明治元年の年貢や諸上納物は前年と同じ比率で年内に上納するように、違背する村は厳しく咎められる、というのである。

また、この元年から二年にかけての村々からの提出書類の宛先の役所名を見ると「谷村郡政役所」というのが少しあるが、ほとんどは「谷村御役所」とあって、代官所時代とほとんど変わらない。やがて「谷村庁」あるいは「谷村出衙」となるのは、二年閏十月からである。

新村の誕生と運営

明治維新後の山梨県内の町村で最も大きな変化は、明治八年(一八七五)に合村、つまり町村合併が進行したことである。県内の七八〇か村は明治七、八年に合併

して一挙に三四〇か村になった。都留市内の十七か村は、このとき(明治八年一月十九日)の山梨県布達によって

○川棚村・厚原村・平栗村・加畑村・金井村・中津森村・大幡村、合併、改宝村

○上暮地・下暮地・小沼村・倉見村・境村・鹿留村・夏狩村・十日市場村、合併、改桂村

○下谷村・上谷村、合併、改谷村

○四日市場村・古川渡村・川茂村・小形山村・田野倉村・井倉村、合併、改永生村

と新しく四か村(桂村は明治二十二年東西桂村に分村)が誕生した。次いで同年九月十五日の布達で

○玉川村・戸沢村・法能村、合併改称、三吉村

○小野村・菅野熊井戸村、合併改称、開地村

○与繩村・朝日馬場村・朝日曾雌村、合併改称、盛里村

と三か村が新たに誕生したことを知らせている。

新村の取り決めについて、禾生村の場合でみると、取り決めの第一は、旧村の村持ち山で入会地はたとえ合村になったとしても「共同不致」でこれまでと同じようにする。第二は、河川の水防も、従来通り旧村単位で行う。第三に、用水堰の費用などについても、従来通りの方式で行う。第四に、合併に伴い設置される事務取扱所は、往還などで連絡の良いところに一か所設立する、とある。

この取り決めは既に山梨権令の藤村紫朗が、明治七年九月二十五日に「合村の心得」という布達を出しており、基本的にはこれを踏襲している。

(都留市史「通史編」より)

博物館開設準備委員会発足

郷土を学び、市民に親しまれる博物館づくりをめざして、平成六年度に資料調査委員会、七年度に構想検討委員会を発足させ、基本構想、基本計画の策定にあたってまいりましたが、いよいよ博物館の開館に向けて、開設準備委員会を発足しました。

委員会では、平成十一年(予定)開館に向けて、新たな早馬町用地での基本計画、展示計画、施設運営、事業計画などのご検討をいただきます。

○委員(順不同)

- 松本四郎(都留文科大教授)
- 山田耕三(県アトアドバイザー)
- 大堀哲(国立科学博物館教育部長)
- 小山田了三(山梨学院大学教授)
- 加藤 章(上越教育大学教授)
- 萩原三雄(山梨文化財研究所調査研究部長)
- 増田廣實(文教女子短期大教授)
- 谷内秀春(社会常任委員長)
- 志村 弘(学識経験者)
- 天野正之(生涯学習推進会議)
- 長田昭明(市教育研修センター)



(仮称)都留市郷土博物館は、上谷二丁目一番地の新町用地を建設地として建設計画を進めてまいりましたが、隣接住民の生活環境を配慮し、建設地を早馬町用地に変更しました。

早馬町用地は、谷村本町の中心に位置し、谷村町駅に隣接するなど、誰もが利用しやすい環境にあります。また、周辺には県文化財の勝山城跡や谷村城跡などの史跡や由緒ある寺社が集中するなど、歴史的な背景からも最適な場所です。

- 窪田 薫(市郷土研究会)
- 清水明正(校長会)
- 志村好市(下町屋台保存会)
- 鈴木茂治(市文化財審議会)
- 外川太郎(早馬町屋台保存会)
- 中村高志(学識経験者)
- 原 幸恵(市女性プラン推進会議)
- 松川 始(市文化協会)
- 天野 行(地元自治会長)